

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和七年四月度 入賞句一覧

投句数 七百三句

名和 永山 選

特選

暁の天与の白よ梅一輪

愛知県豊田市 城山 悠水

「天与の白よ」と天から与えられた「白」は、夜明けである暁に、見事に際立っているという。たつた「一輪」の梅だが、その白さに心打たれたことを「天与の白よ」の措辞によつてうまく表されている。

匂ひ立つ闇ぞ艶なれ梅月夜

不破郡垂井町 川瀬 慶泉

梅の咲いている月夜である。闇の中に梅の匂いが立ち込めている。その甘酸っぱく、何とも言えないうるわしさをうまく表現している。「匂ひ立つ闇ぞ」と、「ぞ」の強調によつて、「艶なれ」がより一層「艶っぽさ」を表している。「闇」と「艶」が十分に生かされた句である。

看板のひらがなひろふ一年生

大垣市 吉田 てるみ

季語は「一年生」である。一般的には「入学児」であるが、「入学」の子季語である。覚えてたの平仮名を、看板を見ながら親に確かめているのだろうか。いや「私はこの字も読めるよ」と自慢げに発音しているのだろう。何とも温かく、微笑ましい情景である。日常の一コマを、うまく切り取った句である。

秀逸

一のダム二のダム越えて水温む

大垣市 酒井 和美

口開かぬしじみもありてまだ未婚

岐阜市 後藤 三恵

春暁や深靄を解く船の銅鑼

養老郡養老町 田中 紫香

その訛り訊けば同郷しじみ汁

大垣市 小林 研

スキップで街に出てゆく春帽子

養老郡養老町 佐藤 咲楽

移住してほどよい水都風光る

海津市 水谷 勲一

木の瘤をなでて語りし桜守

大垣市 平野 きぬよ

雑草の宣戦布告なたね梅雨

本巣市 土川 みどり

会者定離縁の切るる風の糸

広島県福山市 栗本 リカ

春一番さらつと医師の癌告知

大垣市 柴田 えり子

入選

老いてなほ旧きを求め花吹雪

愛知県一宮市

恒川 芳郎

山裾は紅白まだら梅の里

岐阜市

寺島 瞭太

陣跡に時報のチャイム春霞

岐阜市

伊藤 をさむ

ゆずられたEV自転車春よ来い

不破郡垂井町

矢部 順子

大津絵の鬼樂し気に飛花落花

大垣市

臼井 秀子

一剪の静寂をほぐす春告鳥

大垣市

高津 喜久子

光陰の世にうかうかと蝶生る

安八郡輪之内町

野村 照子

神域に両手清める水温む

大垣市

後藤 喜美男

蛇出づや静脈さがす注射針

三重県四日市市

井立 美智乃

末黒野の一雨ごとに青みけり

東京都江戸川区

羽住 博之

復活の老舗酒蔵や水温む

大垣市

森 茂寿

裾上げの糸切る音や春ともし

不破郡垂井町

石井 直実

目借時考えはまた泥沼に

愛知県岡崎市

渡邊 弘章

遠霞一本となる木曾三川

岐阜市

堀江 美州

さかさまに浮世眺める干鰯

中国湖南省

右陣平

選者吟

走り根の支ふる大樹けふ穀雨

永 山



一般の部